

川上和彦さんと介助犬たんぽぽ号の 絵葉書の販売をしています。



介助犬は体にしょうがいのある方をサポートする大切な
パートナーでたんぽぽ号は四国でただ一頭の介助犬です。

川上さんは18歳の時、多発性硬化症を発症し下半身がマヒしたため車いすでの生活となりました。
そしてたんぽぽ号と出会う事で色々な場所に行けるようになり、心身ともに充実した生活を送れる
ようになったそうです。

絵を描き始めたのは家族から色鉛筆を贈られてからで、絵を描くことで足のマヒを忘れそれは新た
な生きがいになりました。

暖かい絵に添えられている言葉は川上ご夫妻が共に考え奥様が書かれています。



四肢にしょうがいのある方にとって介助犬は体の一部とも言える重要な存在です。
しかし現在日本にいる介助犬は65頭(平成25年11月現在)と、とても少なく川上さんは絵ハガキの
売り上げの一部を介助犬育成団体・京都ケアドッグステーションに寄付されています。

川上さんとたんぽぽ号
妖怪屋敷前にて撮影



一枚100円(税込)

